

## 今月のトピックス 「イチゴ炭疽病について」

県内で栽培の9割近くを占める品種「章姫」は、炭疽病にかかりやすいので特に注意しましょう！

### ◆どんな病気◆

イチゴの重要病害で、発病すると回復せずに株全体が枯死する怖い病気です。

育苗時に多発すると苗不足になります。病原菌は、カビの一種で、病徴は、葉では直径2~3mmの黒色の斑点型病斑を生じます。葉柄やランナーでは、やや陥没した黒色病斑を生じ、クラウン部は外側から内側に向かって黒褐変し、しおれて枯死します(はじめに若い葉1~2葉がしおれます)。



斑点型病斑



ランナーの黒色病斑

紡錘形の黒色病斑

### ◆伝染の特徴◆

第一次伝染源は、潜在感染した親株(病徴は見られない)と育苗圃場の土壌中の発病株残渣です。

雨や灌水、ハウス内の水滴落下による水はねで隣接株へ感染します。葉かき痕やすれ傷などからも菌が内部に侵入します。

### ◆発生しやすい条件◆

6月下旬から9月下旬にかけての高温多湿の時期には多く発生します(生育適温は、25~27℃)。早ければ5月下旬の温度上昇とともに土壌水分、空気湿度が高いと発生することがあります。

### ◆これからの防除対策◆

1. 地床では、冠水がなく排水のよい圃場を選定し、なおかつ排水対策は十分に行います。
2. 全面マルチや高設ベンチなどにより地面からの跳ね返りを防ぎます。(できればハウスなど雨よけ施設の中で管理)
3. 灌水は、水滴が極力茎葉に当たらないように行います。(やさしく手灌水、チューブ株元灌水)
4. 薬剤防除は、定期的な防除と降雨前、葉かき後の防除を徹底して行います。(特に梅雨期、高温期)
5. 薬剤散布は、株元まで十分かかるようにし、畝やベンチの両側からも散布します。
6. 育苗管理では、発病の見落としがその後の拡大の原因になるので、毎日観察し、発病を確認したら周辺も含めて思いきって廃棄します。(例：親株を含めランナーでつながっている苗全て)